

2021年4月11日礼拝説教要約
詩篇の言葉で祈り、賛美する⑩

「キリストの勝利を祝う」

(詩篇21・1～13)

一、21篇について

21篇は、王について語っている詩篇です。1節前半、3節、7節を見ると、はっきり分かります。また21篇は、その前の20篇とつながりを持った詩篇であることも推測もできます。21篇2節と20篇4節前半のことばが重なるからです。そういうわけで21篇は、その前の20篇と共に、王について語られている詩篇であり、二つの詩篇の関係が近いがゆえに並べて置かれた、と考えることができます。

二、礼拝における21篇

21篇は、新しくイスラエルの王となるべく、神殿において王の即位式が行われたときか、あるいはすでに即位した王が、主によって立てられていることを確認する際に用いた可能性が高いです。そういうわけで、表題の「**ダビデの賛歌**」は、ダビデの作というよりも、ダビデに献げるという意味合いかと思われまふ。では、21篇が神殿における王の即位式の際に用いられたとして、だれがこれらのことばを朗唱したのでしょうか。1節の「**主よ あなたの御力を王は喜びます。あなたの御救い**

を どんなに楽しむことでしょう。」は、王が語ったとは考えられません。そうなりますと、朗唱したのは祭儀をつかさどる祭司たちか、あるいは高官、ないしは会衆ということになります。それも内容を区分けして、朗唱したのかも知れません。もちろん、今となっては分からないことです。が、「どのようになされたのだろうか」と、思いを古代イスラエルの時代に馳せまふと、面白いです。なお、表題の「**ダビデの賛歌**」の「賛歌(ミスモール)」は、「楽器の伴奏に合わせて歌う歌」の意味です。礼拝において楽器を使用したのは第二神殿時代のことであつたようです。その時代はペルシア帝国の支配下にあり、イスラエルが王を立てることはありませんでした。そういうわけで21篇は、かつて古代イスラエルが王を立てていた、ソロモン王が建築した第一神殿時代に用いられ、王を立てることがなくなった第二神殿時代においても歌われていたということになり、この詩篇を取り巻く壮大さ思ひます。

では、王が立てられない時代に、神殿で王の勝利を祝う21篇を、イスラエルの人々はどんな気持ちで歌つたのでしょうか。ダビデのような理想的な王を思い描いていたようです。聖書を読む限り、ダビデといえども普通の人でしたが、イスラエルの伝統においては、過うではありませんでした。人間には、過

去の人を偉大な人物に祭り上げてしまふ傾向があるように思われます。

三、神、王、私たち

内容に入つてまいります。今一度、1節を見てまいります。「**主よ あなたの御力を王は喜びます。あなたの御救いを どんなに楽しむことでしょう。**」とあります。イスラエルの王に求められた資質は、主なる神に従順にお従いすることであり、神の御思いと一つになつていくことでした。「そんなことが地上の人間にできるのか」と思うことでありまふ。ですが、神の霊が王に降り、王に留まり、王を支えたのです。それは、王を神の操り人形のようにしてしまふことではありませんでした。したがつて、王には神の御意思への従順が求められました。また、人一倍の献身が求められました。王は神の代理者としての務めを行いますので、人一倍厳しい要求が課せられました。キリストの恵みを知つた者は、これらのことがすべて神の恵みによってなされたこと、知ることができます。したがつて、古代イスラエルの王には非常に厳しい要求が課されましたが、王に注がれた神の霊によって、新約時代の言葉で言うなら、聖霊によって務めが可能になつたと言えます。2節をご覧ください。「**あなたは 彼の心の望みをかなへ唇の願いを退けられませぬ。**」とありま

す。神は王のことを子として取り扱つておられます。4節を見てまいります。「**いのちを 彼はあなたに願ひ あなたは彼にそれをお与えになります。いつまでも とこしえまでも限りなく。**」とあります。「**彼とは、王のことです。**」このような王は、イスラエルの歴史において現れたのでしょうか。ダビデ王に当てはめようとしても、歴史上のダビデ王ではなく、理想的なダビデ王まで高めなければ当てはまりません。そういうわけで、イスラエルの人々が、詩篇に書かれている王を、主に油を注がれた理想的な王として受け止め、ほめたたえたことが分かります。では理想的な王とは、だれなのでしょう。キリストです。神御自身が人となられたイエス・キリストです。詩篇21篇に描かれている王はイエス・キリストであるとして読むのが、的を射た読み方、受け止め方となります。ただし、新約の時代になりますと、旧約時代の人々が詩篇21篇を用いて主に礼拝を献げたことと決定的な異なることがあります。詩篇21篇において「**王**」は礼拝の対象になつていませんが、教会の礼拝においては、王なるイエス・キリストは礼拝の対象だからです。私共が、毎週主イエス・キリストの名によって集まり、王なるキリストをたたえ、父・子・聖霊なる神に礼拝を献げるとき、信仰者の「**軸**」は正され、神の前にまっすくにされます。